



第64回

北海道高等学校登山選手権大会

兼第69回全国高等学校登山選手権大会北海道予選会



主 催	北海道高等学校体育連盟・北海道教育委員会 北海道山岳・スポーツライミング連盟
後 援	当別町・増毛町 当別町教育委員会・増毛町教育委員会
主 管	北海道高等学校体育連盟登山専門部
当番校	北海道岩見沢東高等学校

2025年6月24日(火)～27日(金)

神居尻山・暑寒別岳



ご挨拶

北海道高等学校体育連盟会長 古谷 尚

(北海道札幌手稲高等学校長)

令和7年度全国高等学校総合体育大会北海道予選会の開会にあたりご挨拶申し上げます。本大会への出場を果たされた選手の皆さん、そして日頃から熱心に指導に当たられてきた指導者、学校関係者の皆様にお祝いを申し上げます。

学校の教育活動をはじめ、部活動においても制限のないこれまでの活動が戻ってきました。この日を迎えるまでに十分な練習と準備をしてきたことと思います。一方、私たちを取り巻く環境は、これまで通りといきません。社会の急激な進展により、様々な価値観や考え方が認められる多様性の時代となっています。部活動の在り方についても、様々な考え方や参加の仕方が見られるようになってきました。しかしながら、部活動を通して身に付けた経験や粘り強さは社会で逞しく生きていくために、さらに必要な能力になってきています。

今年の夏のインターハイは、「輝け君の青春刻め努力の軌跡」をスローガンに、「開け未来の扉中国総体2025」として、広島県、鳥取県、島根県、岡山県、山口県の中国地方5県、及びサッカー男子は福島県、サッカー女子は北海道、ヨットは和歌山県で開催されます。これまで皆さんは、全道大会出場、そしてインターハイに出場し日本一になることを目標に、同じ志をもつ仲間と励まし合い、指導者の方々に支えられながら厳しい練習を乗り越え、誰にも負けない技術と精神力を身につけ、今日この場に立つことができてます。本日から始まるインターハイ出場の切符をかけた本大会においては、これまで真摯に競技に打ち込んできた皆さんの思い、皆さんの活動を支えてくれた家族や関係者の皆さんの思い、安全・安心な本大会の運営にご尽力いただいている関係者の皆さんの思いなど、本大会に関わるすべての人の思いを皆さんの一挙手一投足に込めプレーしてください。

また、高体連のマークを構成している三つの「K」は、「力」、「技」、「明朗な精神」を意味し、その色彩は「若人の情熱」を示しています。皆さんの三つの「K」と「情熱」は、間違いなく我々道民に明るい話題と勇気を与えてくれることとなります。最後の最後まで諦めることなく、精一杯のプレーで熱戦を繰り広げてくれることを期待しています。

結びとなりますが、本大会の開催に当たり、様々なご支援をいただきました地元市町村及び教育委員会、北海道スポーツ協会、関係競技連盟、そして当番校をお引き受けいただきました高等学校の校長先生をはじめ先生方、補助生徒の皆さんに心から感謝を申し上げます。ご挨拶といたします。

歓迎の言葉

当番校 北海道岩見沢東高等学校

校長 渡辺 淳 一

この度、全道各地での予選を勝ち抜き、第 64 回北海道高等学校登山選手権大会兼第 69 回全国高等学校登山選手権大会北海道予選会に出場されました選手のみなさん、おめでとうございます。当番校を代表いたしまして、心よりお祝い申し上げます。

今年度、本大会は神居尻山と暑寒別岳を舞台に開催されます。

神居尻山はアイヌ語「カムイ・シリ」に由来しており、「神の山」を意味しています。山はなだらかな稜線と深い森を持ち、花の名山としても知られ、この時期には可憐な高山植物が登山道を彩ります。谷が深く刻まれた威厳に満ちた姿はその名にふさわしい山です。

一方、暑寒別岳は増毛山地の最高峰。「北海道の尾瀬」とも呼ばれる雨竜沼湿原が広がっていることでも有名です。初夏でも残雪が多いのですが、この時期、本州では高地でなければ見られない可憐な高山植物の咲き始めを楽しむことができます。

選手の皆さんには、それぞれの山頂から広がる日本海や本道の壮大な大地、大雪山から羊蹄山、利尻山などを一望できる美しい大パノラマを満喫していただけるものと期待しております。

競技に当たりましては、これまでも事故防止に向けて万全を期すようお願いしてきたところですが、本大会におきましても、落雷など変更しやすい天候に関する適切な判断や熱中症対策など、安全確保と体調管理に十分注意を払っていただきますよう強くお願い申し上げます。当番校といたしましても、皆さんが安心して安全に競技に集中できるよう努めます。各学校とも、全国大会での優勝を目指して、チームワークを発揮され、思い出に残る大会にさせていただきますようお願いしております。

最後になりますが、会場の新十津川町、増毛町、雨竜町、当別町の皆様、今大会の運営を支えてくださる登山専門部及び各学校の顧問の皆様をはじめ、関係の方々に心より感謝申し上げ、歓迎の言葉といたします。

大会役員

名誉大会長	石井昭彦		
大会長	古谷尚		
副大会長	壽淺章洋 齊藤光一 木下温	駒井信和 小島修二 澤田時人	齊藤雄大 松田素寛
顧問	後藤正洋 荒川裕生	堀雅志	中島俊明
参与	山城宏一 瀬越義範	国安隆 高野瑞洋	佐藤稔
大会委員長	渡辺淳一		
大会副委員長	小野寺典祥		
大会委員	松尾諭 桂讓 土居昌彦 細野護 塩谷和樹 齊藤豊一 水野秀人 木村宣幸	小野寺明彦 高野純平 三戸涉 梅川悟史 藤原幸二 飯田一三 玉森一 中新井尊	小師良仁 武田健介 山納秀俊 田中拓己 宮澤宜法 山田寛己 板垣教一 石丸高志
安全対策委員長	石井昭彦		
安全対策副委員長	三戸涉	梅川悟史	
安全対策委員	齊藤豊一	道順宏一郎	

大会実行委員

審査委員長	北海道北広島高等学校	木村宣幸
	北海道高体連登山専門部専門委員長	三戸 渉 (室蘭栄)
男子隊隊長	市立函館高等学校	塩谷和樹
女子隊隊長	北海道江別高等学校	板垣教一
コースパイロット	細野 護 (旭川工業)	竹中正喜 (釧路商業)
	【男子】	【女子】
副隊長	佐々木亮介 (札幌南) 日向真樹 (室蘭栄)	飯田一三 (旭川東) 石丸高志 (旭川西)
行動中審査チーフ	藤原浩二 (有朋苫小牧)	玉森 一 (釧路湖陵)

審査及びサポート

宮澤宜法 (小樽潮陵)	塩見浩二 (小樽潮陵)	山本圭一 (帯広農業)
竹久尚輝 (帯広農業)	塩谷和樹 (市立函館)	水野秀人 (帯广大谷)
篠田昌宏 (帯广大谷)	新居大輔 (北広島)	上内智英 (釧路湖陵)
田中拓己 (札幌北)	松本奈巳 (札幌北)	安井裕也 (札幌北)
酒井一明 (札幌南)	澤田大輝 (札幌南)	松永直樹 (函館ラサール)
猪田悠司 (江別)	丹野裕之 (旭川西)	山田寛己 (遠軽)
吉田卓司 (遠軽)	小野泰章 (北見北斗)	柴田 一 (室蘭栄)
日向真樹 (室蘭栄)	山納秀俊 (室蘭栄)	飯田一三 (旭川東)
三宅武寿 (旭川東)	業天真由美 (富良野)	岩橋一成 (北星女子)
アレックス クチュール (北星女子)	小池圭太 (滝川工業)	竹中正喜 (釧路商業)
山下文孝 (高体連OB)	西 千秋 (高体連OG)	桐尾義之 (高体連OB)
畑野和宏 (高体連OB)	谷山直俊 (遠軽消防)	

ペーパーテスト 飯田一三 (旭川東)

天気図 木村宣幸 (北広島)

現地本部 梅川悟史 (岩見沢東) 齊藤豊一 (岩見沢東)
中新井 尊 (北見北斗) 内海健一 (旭川工業)

大会補助 北海道岩見沢東高等学校山岳部員

大会事務局

総務	梅川悟史	齊藤豊一
競技	梅川悟史	齊藤豊一
輸送	泊道順 宏一郎	片桐敏彦
救護	道順 宏一郎	山平香代子
記録	山平香代子	道順 宏一郎
会計	遠藤 亘	

近畿日本ツーリスト

開 会 式

1. 開式宣言
 2. 優勝杯返還
 3. レプリカ授与
 4. 大会長挨拶
 5. 大会委員長挨拶
 6. 審査委員長諸注意
 7. 選手宣誓
 8. 閉式宣言
- *当番校より連絡

開 会 式

1. 開式宣言
 2. 成績発表
 3. 優勝杯・賞状授与
 4. 審査委員長講評
 5. 大会委員長挨拶
 6. 閉式宣言
- *当番校より連絡

研究課題「熱中症予防について」

大会の審査要領

1. ペーパーテスト（登山についての基礎知識） 10点（3人の平均点）
2. 行動中テスト 5点
(地点確認ポイントによる読図…2点)
(隊長からの読図・自然等に関する質問…3点)
3. 審査の配点

①体 力	30点	②歩 行	20点
③装 備	10点	④設営・撤収	5点
⑤炊 事	5点	⑥気 象	5点
⑦計画・記録	5点	⑧マナー	5点

大会日程

1日目 24日(火)

- 10:45 受付開始(道民の森神居尻地区森林学習センター 11:30まで)
- 11:00 専門委員会(森林学習センター研修室2)
- 11:30 安全対策委員会【全員】(森林学習センター研修室2)
- 13:00 開会式(森林学習センター体育館)
- 13:30 装備審査(森林学習センター体育館)
- 14:00 安全対策委員会【全員】、審査委員会(コテージB棟食堂)
ペーパーテスト(森林学習センター研修室1・2)・天気図審査(コテージA棟食堂)
- 17:00 夕食(弁当配布:コテージA・B棟食堂)
- 19:00 安全対策会議 [役員+顧問] (コテージA棟食堂)
- 21:00 就寝

2日目 25日(水)

※男子・女子とも全装行動

- 5:00 起床 各自朝食
- 7:00 男子はコテージA棟前、女子はコテージB棟前に集合
- 7:30 登山開始 [Cコース~Aコース]
- 10:00 神居尻山山頂着
- 11:00 山頂出発
- 13:00 登山口着
- 13:30 幕营地(林間キャンプ場)
- 14:00 幕営審査
- 15:30 炊事審査
- 16:30 安全対策会議 [役員+顧問] (コテージA棟食堂)
- 17:30 ペーパーテスト・天気図返却
- 20:00 就寝 ※設営隊の担当2名がテント場を管理

3日目 26日(木)

※男子・女子ともサブザック行動 山頂までチーム行動

- 3:00 バス乗車(コースパイロット、行動中審査、チェックポイント、隊長の先生方)
- 3:00 起床
- 3:30 幕营地出発 バス乗車 朝食は各自バス内でのとる
- 4:30 雄冬駐車場トイレ休憩(バス男2台)
- 4:50 大別荘防災ステーショントイレ休憩(バス女2台)
- 5:30 登山口到着(暑寒コース:暑寒荘前)
- 6:00 登山開始 ※スタートの係の指示で開始(装備審査、設営審査の先生方)
- 7:30 5号目到着
- 10:00 山頂着 ※女子は10:20着
- 10:30 山頂出発(隊編成後出発)
- 13:30 登山口到着(箸別コース) バス乗車
- 14:00 バス出発
- 14:50 オーベルジュましけ到着 入浴(バス男女各1台)
- (■15:00 岩尾温泉あったまーる到着 入浴(バス男1台))
- 〈▲15:40 浜益温泉到着 入浴(バス女1台)〉
- 15:50 オーベルジュましけ出発
- (■16:00 岩尾温泉出発)
- 〈▲16:40 浜益温泉出発〉
- 17:15 道民の森到着
- 17:45 交流会(A棟BBQ:選手、B棟BBQ:役員・顧問)
- 19:00 終了
- 21:00 就寝

4日目 27日(金)

- 6:00 起床 朝食
- 8:00 審査委員会(コテージA棟食堂)
- 9:00 テント撤収
- 9:30 閉会式(林間キャンプ場) ※雨天時森林学習センター体育館を使用
- 10:00 解散

荒天対策

- 2日目 ① サブザック行動に変更する
- ② コースをC~Bに短縮する
- 3日目 ① 全区間隊行動に変更する
- ② 扇風岩から引き返す
- ③ 滝見台から引き返す
- ④ 佐上台から引き返す

コース概況 1 神居尻山（C～Aコース）

北海道石狩市浜益区に位置する神居尻山（標高946.7m）は、当別町の道民の森の造成に合わせ、1990年（平成2年）に登山コースが作られた山である。樺戸山地の北端に位置し、札幌からも日帰り圏内ということから多くの登山者に親しまれている。山はなだらかな稜線と深い森を持ち、花の名山としても知られ、特に5月から7月上旬にかけては可憐な高山植物が咲き誇り、登山道を彩る。山名はアイヌ語で「神様の山」の意味で、雪崩によって谷が深く刻まれた威厳に満ちた姿はその名にふさわしい。

神居尻山のある道民の森神居尻地区には、総合案内所、森林学習センターをはじめ林間キャンプ場やコテージも完備されており、登山や自然学習にはうってつけの場所である。「道民の森」は、道民が森林とふれあえる場として、北海道が整備した森林総合利用施設である。「森に集う・森に学ぶ・森に遊ぶ」をテーマに神居尻・青山中央・一番川・牧場南・月形地区で森林とのふれあいを楽しめる施設となっている。

出発地点の森林学習センターから車道を左に進むと、最初にAコース登山口、さらに進むと両脇にはイタヤカエデやハルニレの自然林が広がりBコース登山口がある。車道をさらに1kmほど進むとスタート地点となるCコース登山口がある。今回我々は、穏やかな森歩きから一気に稜線を目指すCコースから登り、3コースの中で最長だがコース変化に富みダケカンバが美しいAコースで下山する周回ルートを進む。

標高約310mのCコース登山口から登山道に入るとすぐに、樹林下の急登が始まる。周囲はミズナラやダケカンバの林が広がり、道端にはエゾノレイジンソウ、クルマバソウ、ゴゼンタチバナ、イワカガミなどが見られるだろう。

470m標高点を過ぎると、しばらくは傾斜の緩い尾根歩きとなり時折視界が少し開ける。樹間から石狩平野や支笏湖周辺の山並みも見える。途中「ドンダリの木」の説明標識があり、ダケカンバが増え、足元にはマイヅルソウの白い花が咲いているのが見られるだろう。標高550m付近の木製ベンチを過ぎた辺りから再び斜度が増し、細い丸太を組んだ階段上りが始まる。木段が連続する急登を進む。登るほどに傾斜はきつくなり、階段の歩幅も狭まって足を横に置かねばならないほどだ。高度はどんどん上がり、樹林帯の密度が少しずつ薄れ、空が開け始める。やがて樹林帯を抜けて草地の急斜面へと入る。ザレた土と小石が混じった路面が現れ、階段状に補強された箇所もあるが、崩れ滑りやすい所もあるので足元に注意が必要だ。補助ロープを利用し慎重に登りたい。周囲にはヨツバシオガマ、チシマフウロ、タニウツギ、シラネアオイなどが咲き、遠くに札幌や支笏湖周辺の連山が見える。

樹林限界を超え、稜線に出ると眼前が深い谷に切れ落ち大展望が広がる。この稜線上を左に回り込みながら続く道をたどると、チシマザサが周囲を覆い、ハクサンチドリが花を咲かせるのが見られるだろう。ほどなく842mピークに到着しBコースと合流する。周囲の山々、特に西北西方向には石狩湾と浜益の街並みが一望できるパノラマが広がる。北北西には明日登る暑寒別岳の姿も遠望できる。振り返れば、今辿ってきた尾根筋がなだらかに続いている様子も確認できる。足元にはミヤマオダマキの姿も見られるだろう。

稜線を境にこれまでの樹林中心の景色から高山植物と笹の荒々しい景色に一変する。右側に断崖のように落ち込むのは雪崩斜面で、樹木が生えず岩と草に覆われている。ここから先の稜線は崖縁のような所も歩くので、ロープも張られているもののくれぐれも安全に配慮して歩いてもらいたい。頂上へ向かう稜線の急斜面は、全体が高山植物のお花畑だ。タカネナデシコ、ヨツバシオガマ、イワオウギ、キクバクワガタ、エゾノレイジンソウ、ミヤマアズマギク、ショウジョウバカマ、ミヤマオダマキ、キジムシロなどが例年この時期咲き誇る。頂上へは崖縁の急斜面の階段登りだ。高度が上がると、稜線越しにピンネシリが姿を現す。小さな起伏を越えると大きな展望盤が置かれた山頂に到着である。

山頂は比較的広く、石が積まれ山頂標識が設置されている。山頂に立つと、まずその見事な展望に圧倒される。東南東にはピンネシリ（1100.4m）の美しい山容が連なり、遠く暑寒別岳方面まで見通せる。南側には石狩川の大きな流れと田園地帯が広がり、北海道らしい大地のスケールを肌で感じられる。天候が良ければこれから進む避難小屋方面を含め、存分に景観を楽しみ、ゆっくり休憩してもらいたい。

山頂で景色を満喫した後は、Aコースを利用して下山する。約50m下った地点には、2020年に建て替えられた真新しい避難小屋がある。寝具、トイレ、水場などはないが、そこにあることで登山者には大きな安心感を与えてくれている。小屋付近ではハクサンチドリ、ミヤマオダマキやチシマフウロの赤や青の花に混ざって、ゼンテイカの黄色い大きな花が見られるだろう。さらに先に進むと今は廃道となったピンネシリへの縦走路分岐に当たるが、そこを左に折れ下っていく。

分岐点から少し進み急坂を下るとダケカンバの若木が目立つようになり、植生が変わり始める。この先からは、尾根沿いのやや急な下り坂が続くことになる。標高865m付近、尾根は細くなり、両側が急斜面になる。足元は固い土と小石が主体であるが、所々に露出した根っこがあり、注意深く歩く必要がある。タニウツギのピンクの花が目を引きそうだ。さらに高度を下げると、周囲はやがて樹林帯へと変わる。

標高780m付近ではミズナラやイタヤカエデなどの広葉樹が中心となり、道は緩やかな下りへと変わる。標高690mに差し掛かると、登山道は少し湿った土質へと変わる。この区間では、木の根が露出している箇所や、前日までの天候によってはぬかるんだ足場が滑りやすくなっているため、一層注意深く足を運ぶ必要がある。森の中ではエゾアジサイが蕾をつけ始めているのが見られるかもしれない。

さらに下り続けると、標高539mを少し越えた所で神居尻山森林管理道を右側に見るが、左側の登山道を進む。このポイントには簡素なベンチが設置されている。周辺では、マイヅルソウ、クルマバソウ、ハクサンチドリが見られるだろう。

道は次第に草地へと変わる。遊歩道と交差する箇所が2カ所あるが、標識もあり明瞭なので迷わず登山道を進む。背の高いヨシやササに囲まれた道を進み、緩やかな傾斜を降りAコース登山口手前の分岐を右折し、林間キャンプ場へと向かう。虫が多いので、最後まで虫よけ対策は気を抜かないほうがよいだろう。

コース概況 2 暑寒別岳（暑寒～箸別コース）

暑寒別岳（しょかんべつだけ）は、北海道北西部に位置する増毛山地の最高峰である。山名は暑寒別川の水源にあることに由来し、アイヌ語で「ショカンベツ」は「滝の上にある川」を意味するという。増毛山地には標高1,491.6mの暑寒別岳をはじめ、暑寒別川を囲むように雄冬山、浜益御殿、浜益岳、群別岳などの山が並んでいる。安政五年に開通した古道、増毛山道が、国道231号線の開通に伴い廃道になってから60年余り経った2016年に全線が復元され、浜益御殿や雄冬山に山道を通じるまで、登山道があるのは暑寒別岳だけであった。増毛山道は2018年に北海道遺産に指定された。

登山道は増毛町から暑寒と箸別の2コース、雨竜町から雨竜沼湿原・南暑寒岳を経由する1コースがある。今回我々は早朝にキャンプ地の当別町から増毛町へバス移動し、暑寒荘のある暑寒コースからチーム行動で山頂を目指し、山頂休憩後箸別コースを隊行動で箸別小屋のある登山口まで下るコースを進む。

暑寒荘駐車場にはトイレが整備されており、準備万端で出発できる環境が整っている。駐車場から階段を上ったところに3階建て無料の木造山小屋である暑寒荘があり、登山はここからスタートする。この辺りには春先にエゾエンゴサクの群生が見られる。登山口から1合目まではトドマツ、ミズナラやシラカンバなどを周囲に見ながら急な階段登りが続く。視界はあまり開けないが、足元にはギンリョウソウやサンカヨウ、エゾアジサイなどが見られるだろう。傾斜が緩むと右に大きくカーブして1合目の標柱を確認し、頂上からの長い尾根道上に乗る。ここから広く平坦な道を進み、やがて終わりかけのムラサキヤシオツツジが咲く「つつじヶ丘」に到着する。この辺りからは視界が開け、すぐに2合目を通過。さらに進むと尾根上に岩が露出した標高593mの「佐上台」と呼ばれる休憩ポイントに着き、景観を楽しみながら一息つくことができるだろう。

3合目～4合目にかけて比較的緩やかな登りが続く。登山道沿いにはシナノキンバイやキバナシャクナゲなどの高山植物が見られるだろう。4合目辺りからいったん見晴らしが良くなり増毛町や日本海を望むことができるが、ミズナラやかん木の単調な尾根道が続く。5合目標識周辺は広場になっており、ここを過ぎると低く這うように枝をくねらすダケカンバに注意が必要だ。足元だけでなく頭をぶつけないように気を付けながら登って行こう。6合目を過ぎると徐々に斜度が増し、滑りやすい場所には補助ロープが張られている。この急登を上り切った所が1075.8mの三等三角点である。この辺りからはハイマツ帯が広がり、視界が一気に開けていく。傾斜が緩んで眺めが良くなった道を進むと7合目の標識、さらに進むと「滝見台」に到着する。ここからは西尾根の景観や西暑寒岳中腹にかかる大滝が遠望できる。

さらにひと登りすると8合目の「扇風岩」といわれる大岩に到着する。ここは小高い展望台のような場所で、眺めが素晴らしく、先程の大滝や西暑寒岳はもちろん日本海や留萌市街も一望できる。この扇風岩を右側から下に回り込むとサマニヨモギやチシマギキョウの蕾が岩場に見られるかもしれない。

岩場を笹原のコルへ下ると、標高差約250mの頂上台地への急斜面が眼前に現れる。笹原を抜けてやがて急登に取り付くことになるが、ここが山頂への最後の頑張りどころである。長いロープを活用しながらガレ場を登る所もある。くれぐれも落石に注意し、下から登ってくる登山者への配慮を忘れないように気をつけながら進もう。途中、9合目の標識を経てさらに進むと突然目の前が開け、広々とした頂上台地の上に立つ。後ろを振り返るとこれまで歩いてきた登山道を辿ることができるだろう。山頂に向かって進む足元には、チングルマ、ミヤマアズマギク、エゾツツジ、そして運が良ければ増毛山地の固有種のマシケゲンゲなども見られるかもしれない。やがて箸別コースが左から合流し、雨竜沼湿原や南暑寒岳を左手に見ながらさらに進むと台地の奥に一段高くなった山頂に到着だ。そこは、日本海、増毛町、留萌市街、大雪山、羊蹄山、利尻山、積丹半島などを一望できる360度の大パノラマが広がる。景観を楽しみながら、休憩しよう。

下山は分岐から箸別小屋を目指す右のルートへと下る。頂上台地から下り始めは緩やかで平坦な道を進む。周りをハイマツ、ミヤマハンノキ、草が取り囲む。やがて急になる下り坂を、足元の大小の石に気をつけながら下る。9合目を経た辺りからエゾノハクサンイチゲやシナノキンバイが咲き誇っていることだろう。上からちょっとした高台に見えた1395mのコブを経て細く続く登山道を下っていく。天気が良ければ周囲の展望はずっと開けている。8合目の標識を経て7合目に至るお花畑は、毎年登山客を楽しませてくれる一大スポットだ。シナノキンバイ、エゾノハクサンイチゲ、チシマフウロ、ハイオトギリ、ミヤマアズマギクなどが見られるだろう。7合目標識周辺で展望と花を十分に楽しんで味わい、その先に続く長く展望のあまり利かない長い道を前に、しっかりと英気を蓄えよう。

道は徐々に笹原の中を進み、やがて根曲がり竹と丈の低いダケカンバの森への入口に入る。視界の遮られた樹林帯の中、苔むした岩と泥、木の根の入り組む滑りやすい急斜面が続くので気を抜かず下る。6合目から3合目までの区間は斜面が急になったり緩くなったりを繰り返しながら徐々に下っていく。所々ダケカンバが低く曲がりくねって登山道を覆っているため、足元だけでなく頭上にも注意が必要だ。やがて2合目標識を目にして登山口までもう一息とホットするかもしれないが、気を抜くのはまだ早い。実はここからが長い。各合目表示はだいたい標高100mおきに立てられているのだが、この辺りから緩斜面が続くため登山口までは随分遠く感じられる。普通に歩けば1時間弱の時間を要する。単調で緩やかな尾根歩きに、時々見られるミズナラの大木の光景がアクセントになっている。湿地に巨大になったミズバショウが見られるかもしれない。やがて樹林帯が突然途切れ、登山ポストと広場のある箸別コース登山口に到着となる。

大会参加校数一覽

支部名	全道大会						支部大会			
	参加校数			参加者数			参加校数	参加者数		
	男	女	計	男	女	計	合計	男	女	計
札幌	3	4	7	12	16	28	7	85	44	129
室蘭	1	1	2	4	4	8	2	20	13	33
小樽	1	0	1	4	0	4				
南空知	1	1	2	4	4	8				
旭川	3	3	6	12	12	24	5	54	23	77
北見	1	2	3	4	8	12	2	25	11	36
十勝	2	1	3	8	4	12	3	28	14	42
釧根	1	1	2	4	4	8				
函館	2	0	2	8	0	8	3	19	1	20
計	15	13	28	60	52	112	22	231	106	337

先輩の踏み跡

全国大会優秀校

回	期 日	会 場	当番高校	優勝校(男)		優勝校(女)
1	1962.7.10～7.12	大雪山系	旭川東	芦 別		旭川東
2	1963.6.29～7. 1	大雪山系	上 川	札幌南	苫小牧東	芦 別
3	1964.7. 2～7. 4	ニセコ連峰	倶知安	旭川東	小樽千秋	旭川東
4	1965.7. 2～7. 4	富良野岳・十勝岳	富良野	増 毛	遠 軽	旭川東
5	1966.6.24～6.26	十勝岳・美瑛岳 美瑛富士	美 瑛	旭川東	増 毛	旭川東
6	1967.6.22～6.24	樽前山・風不死岳 恵庭岳	苫小牧東	旭川東	北見柏陽	旭川東
7	1968.7. 4～7. 5	ウペペサンケ	帯広三条	旭川東	芦 別	旭川東
8	1969.7. 3～7. 5	芦別岳・富良野西岳	芦 別	芦 別	帯広柏葉	芦 別
9	1970.7. 2～7. 4	横津岳・駒ヶ岳	遺愛女子 函館西	標 茶	帯広農業	遺愛女子
10	1971.7. 1～7. 3	大雪山系	旭川商業	芦別工業	旭川東	芽 室
11	1972.6.29～7. 1	知床山系	北見柏陽	旭川東	北見北斗	標茶農業
12	1973.6.28～6.30	十勝連峰	旭川東	深川西	函館有斗	旭川東
13	1974.7. 4～7. 6	天狗岳・余市岳	北海道工業	函館有斗	増 毛	芽 室
14	1975.6.26～6.28	羅臼岳・羅臼湖	標茶農業	標茶農業	増 毛	標茶農業
15	1976.6.23～6.25	夕張岳(日陰の沢)	美唄工業	美唄工業	小樽工業	標茶農業
16	1977.6.22～6.24	天塩岳	士 別	旭川東	北見北斗	標茶農業
17	1978.6.28～6.30	大千軒岳	函館有斗 函館白百合 函館ラ・サール	標茶農業	小樽工業	函館白百合
18	1979.6.28～6.30	室蘭岳・カムイヌプリ	室蘭工業	八 雲	旭川東	函館白百合
19	1980.6.26～6.28	ニセコ連峰	小樽工業	北見北斗		北見北斗
20	1981.6.25～6.27	空沼岳・札幌岳	札幌慈恵	富良野工業	北見北斗	函館白百合
21	1982.6.23～6.25	夕張岳	夕張工業	檜山北		旭川商業
22	1983.6.23～6.25	暑寒別岳・雨竜沼	砂川南	富良野工業	八 雲	北見北斗
23	1984.6.21～6.23	富良野岳・芦別岳	富良野工業	帯広柏葉		北見北斗
24	1985.6.20～6.22	斜里岳・羅臼岳	網走南ヶ丘	東 川	網走南ヶ丘	網走南ヶ丘
25	1986.6.26～6.28	雄阿寒岳・雌阿寒岳 阿寒富士	標 茶	北見北斗		標 茶
26	1987.6.17～6.20	羊蹄山・アヌプリ チセヌプリ・目国内岳	札幌新陽	小樽工業	北見北斗	旭川東栄
27	1988.6.23～6.25	ウペペサンケ山・ニペソツ山	帯広柏葉	小樽工業		旭川東栄
28	1989.6.22～6.24	駒ヶ岳・狩場山	函館中部 檜山北 遺愛女子	富良野工業	小樽工業	旭川東栄
29	1990.6.21～6.23	幌尻岳・トッタベツ岳	苫小牧東 静 内	小樽工業		旭川東栄
30	1991.6.20～6.22	羊蹄山・目国内岳・雷電山	倶知安	小樽工業	札幌稲西	江 別
31	1992.6.18～6.20	富良野岳・芦別岳	富良野	小樽工業		江 別
32	1993.6.23～6.25	夕張岳	夕張緑ヶ丘実業	旭川東	富良野工業	旭川東
33	1994.6.23～6.25	硫黄山・羅臼岳	北見北斗	旭川東		旭川東
34	1995.6.21～6.23	余市岳・無意根山	札幌稲西	旭川東	富良野工業	札幌南
35	1996.6.27～6.29	沼ノ原・トムラウシ山	帯広農業	札幌南		江 別
36	1997.6.19～6.21	恵山・海向山 白水岳～遊楽部岳	函館東 檜山北 函館ラ・サール	札幌南	札幌工業	北見北斗
37	1998.6.24～6.26	アポイ岳・イドンナップ岳	静 内	旭川東		北見北斗
38	1999.6.17～6.19	十勝連峰	富良野緑峰	札幌南	旭川東	北見北斗
39	2000.6.21～6.23	斜里岳・雄阿寒岳	釧路湖陵	札幌南		北見北斗
40	2001.6.20～6.22	羊蹄山・ニセコ山系	小樽湖陵	札幌南	札幌工業	旭川東
41	2002.6.26～6.28	美唄山・樺戸山地	美唄工業	札幌工業		北見北斗
42	2003.6.25～6.27	知床硫黄山・羅臼岳	北見北斗	北見北斗	札幌南	札幌南
43	2004.6.23～6.25	十勝幌尻岳・伏美岳 ピンパイロ岳	帯広農業	江 別		北見北斗
44	2005.6.22～6.24	無意根山・羊蹄山	札幌南	札幌南	江 別	八 雲
45	2006.6.21～6.23	白水岳・狩場山	函館ラ・サール	札幌南		八 雲
46	2007.6.20～6.22	ペンケヌーシ岳 チロロ岳	静 内	札幌南	北見北斗	北見北斗
47	2008.6.25～6.27	美瑛岳・旭岳	旭川東	旭川東		北見北斗
48	2009.6.24～6.26	斜里岳・雄阿寒岳	釧路湖陵	旭川東	札幌北	旭川東
49	2010.6.23～6.25	神威岳・鳥帽子岳 札幌岳・空沼岳	札幌稲西	札幌北		旭川東
50	2011.6.21～6.24	岩内岳～目国内岳 羊蹄山	小樽桜陽	札幌北		旭川東
51	2012.6.26～6.29	ピンネシリ 南暑寒岳～暑寒別岳	岩見沢東	札幌北		北星学園女子
52	2013.6.25～6.28	斜里岳 羅臼岳	遠軽(協力校:北見北斗)	北見北斗		旭川東
53	2014.6.24～6.27	ウペペサンケ山・ニペソツ山	帯広柏葉	帯広柏葉		帯広柏葉
54	2015.6.23～6.26	風不死岳 樽前山 羊蹄山	札幌西	旭川東		旭川東
55	2016.6.21～6.24	長万部岳 狩場山	遺愛女子	旭川東		旭川東
56	2017.6.20～6.23	カムイヌプリ～室蘭岳 来馬岳～オロフレ山	室蘭栄	釧路湖陵		旭川東
57	2018.6.26～6.29	上ホロカメツク山～十勝岳 オブタテシク山	旭川北	旭川東		釧路湖陵
58	2019.6.25～6.28	雄阿寒岳 雌阿寒岳	釧路北陽	帯広柏葉		釧路湖陵
59	中 止	(札幌岳・岩内岳・目国内岳・白樺山)	(北広島)			
60	2021.6.22～6.25	上ホロカメツク山～十勝岳 北鎮岳～旭岳	旭川北	旭川東		旭川北
61	2022.6.21～6.24	旭岳・黒岳～北鎮岳～中岳	旭川工業	旭川東		旭川東
62	2023.6.20～6.23	旭岳・上ホロカメツク～十勝岳	旭川東	旭川東		旭川東
63	2024.6.25～6.28	ニセコ連峰・羊蹄山	小樽湖陵	旭川東		旭川東
64	2025.6.24～6.27	神居尻山・暑寒別岳	岩見沢東			

全道高校体育大会参加における個人情報及び肖像権に関わる取り扱いについて

北海道高等学校体育連盟
令和7年度全道高校体育大会当番校

北海道高等学校体育連盟及び令和7年度全道高校体育大会当番校は、大会参加申込書等を通じて取得される個人情報及び肖像権の取り扱いに関して以下の通り対応します。

1 参加申込書に記載された個人情報の取り扱い

- (1) 大会プログラムに掲載されます。
- (2) 競技場内でアナウンス等により紹介されることがあります。
- (3) 競技場内外の掲示板等に掲載されることがあります。

2 競技結果（記録）等の取り扱い

- (1) 当番校が認めた報道機関等により、新聞・雑誌及び関連ホームページ等で公開されることがあります。
- (2) 大会プログラム掲載の個人情報とともに、当番校が作成する大会報告書（以下報告書という）に掲載されます。
- (3) 新記録、優勝及び上位入賞結果（記録）等は、次年度以降の大会プログラムに掲載されることがあります。

3 肖像権に関する取り扱い

- (1) 当番校が認めた報道機関が撮影した写真が、新聞・雑誌・報告書及び関連ホームページ等で公開されることがあります。
- (2) 当番校が認めた報道機関が撮影した映像が中継または録画放映及びインターネットにより配信されることがあります。また、DVD等に編集され、配付されることがあります。
- (3) この他、北海道高等学校体育連盟の許可に基づき、記念写真等が販売されることがあります。

4 当番校としての対応について

- (1) 取得した個人情報を上記利用目的以外に使用することはありません。
- (2) 参加申込書の提出により、上記取り扱いに関するご承諾をいただいたものとして、対応させていただきます。
- (3) 大会役員、競技役員、運営委員、その他各種委員や補助員、当番校と大会に関する契約をしている者、大会運営関係者の皆様につきましては、上記取り扱いに関するご承諾をいただいたものとして対応させていただきます。
- (4) 記念写真等の販売について業者から直接当番校へ問い合わせがあった場合は、一括道高体連事務局で対応しますので業者へご連絡ください。
- (5) 個人情報等の掲載または公開等に関してのご質問は、北海道高等学校体育連盟事務局までご連絡ください。

連絡先・問い合わせ先
北海道高等学校体育連盟事務局
011-826-3300

祝

第64回 北海道高等学校登山選手権大会
兼
第69回全国高等学校登山選手権大会北海道予選会

2025年6月24日(火)～27日(金)
神居尻山・暑寒別岳



協賛：北海道の山の店 秀岳荘